

「なりたい自分」に向かって

箕輪中部小学校 中村 弘幸

こんな子どもたちに

私が担任している自情障学級ひびき1組は、8名が在籍している。個によって、ひびき学級で活動する頻度や時間には違いがあり、ほとんど原学級で活動している子もいれば、大半をひびき学級で活動している子もいる。その内、3人の子（いずれも5年生）は、生活の基盤をひびき学級に置き、朝から帰りまで、ほとんどの時間をひびき学級で過ごしている。どの子も、屈託のない笑顔を持つ明るく元気な子で、ひびき学級の中では自分の気持ちをストレートにぶつけてくる、いわば「子どもらしい子ども」たちである。

この3人は、ほとんどの教科をひびき学級で学習しているが、ちょっとした面倒なことや難しいことがあると、そこから逃げ出したいという気持ちが強く、なかなか集中して学習に取り組むということが難しい。少しでも「できた。」「わかった。」「おもしろい。」という実感が持てるように、学習の内容や分量、支援のあり方等を工夫しているつもりではあるが、そもそも授業自体から逃げ腰で拒否感を持っている感があり、取り組む前から「嫌だ」「やらない」という言葉がでてくることも多い。しまいには「きらい」「死ね」という言葉が出てきて、気持ちが不安定になってくることもしばしば・・・。

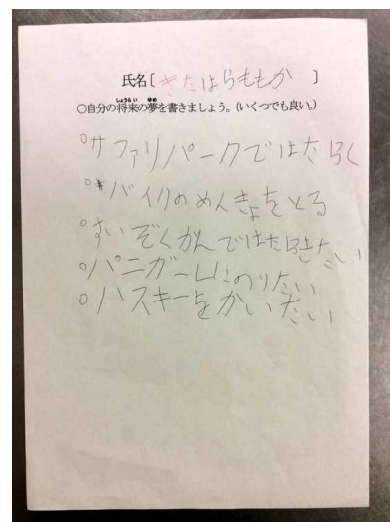
どうしたら、もっと前向きに学習に向き合い「やってみよう」という気持ちを持たせることができるのか……。そんなことに悩んでいた時に、同僚の先生が「勉強することを『こんなふうになりたい』という自分の願いと結びつけて捉えることができるといいのね。」と言葉をかけてくれた。この言葉が私の中でピンときた。おりしも本校の今年の研究テーマが「なりたい自分に向かっていきいきと学ぶ姿を求めて」（午前中の教育課程研究協議会で発表があった通り）ということもある。子どもたちが「なりたい自分」を意識し、それと学習を結びつけて捉えることで、より意欲的に学習に向き合うことができるのではないかと考え、以下のような取り組みを実践してみた。

将来の夢を書く

まずは、「なりたい自分」を明確にすることにした。「なりたい自分」というと、「友だちと仲良くしたい」「楽しく勉強し、分かるようになりたい」等、現在の自分の態度的な願い等も考えられるが、ここでは、ストレートに「将来の夢」を書くことにした。その方が子どもも書きやすいし、イメージを持ちやすい。どんなことでも良いので、自分が思い

描いている夢や希望、やりたいこと、なりたい自分について自由にいくつでも書いてみようとして子どもに提案した。

「サファリパークで働く」「車を作りたい」「テニス選手でオリンピックに出て1位になりたい」「車の免許を取りたい」「パニガーレ（バイク）に乗りたい」「GTRに乗りたい」「犬を三匹飼いたい」等々、子どもたちは、いくつもの夢、願いを次々と素直に書いていった。「夢なんてない」「分からない」という子もいるかとも思っていた私は、正直ビックリした。この子達が、こんなにも自分の夢や希望を明確に持っていたとは……。しかも、それを素直に次々と書くことができるとは……。素直な気持ちを持つ子どもたちの姿を嬉しく感じた。



M女が書いた将来の夢

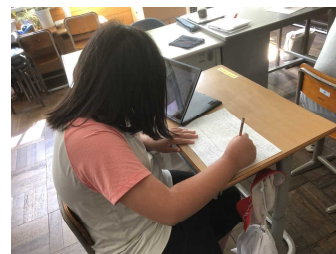
自分の夢を確かめる

次に、自分たちが書いた夢を確かめる活動を行った。自分の夢のイメージを具体的に捉えることができるように、それぞれが書いた夢のイメージ画像をスライドにまとめ、みんなで見合うようにした。金メダル選手の写真、希望している職業の写真、乗りたいバイクの写真等々……。子どもたちは楽しそうに写真を眺めていた。自分の夢に対するイメージを広げ、合わせて友だちがどんな夢を持っているのかを知ることができる活動となった。

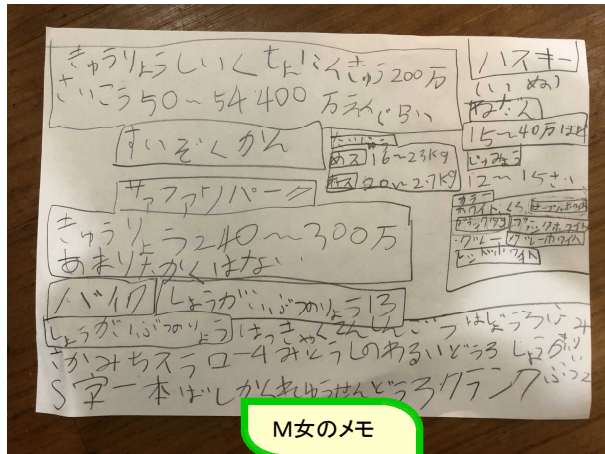


夢の実現のために必要なことを調べる

次に、「自分の夢を実現するために必要なこと」について、自由に調べる活動を行った。クロームブックを用い、いろいろなことを検索し、どんなことでも自由に調べることにした。どんな学校に行けば良いのか、給料はどのくらいか、免許は何歳から取れてどんな試験があるのか、テニスの強豪校はどこか、自分が飼いたい犬はいくらくらいするのか等々、子どもたちはいろいろなことを夢中になって調べてい



った。一人で調べるのが難しい子には、「どんな内容で検索すればいいか」等を伝えながら支援した。普段の学習では、「30分間はしっかり勉強」という目標を掲げながらも、なかなか持続して活動できない子どもたちが、この時ばかりは時間いっぱい夢中になって取り組む姿が見られた。授業後、給食の準備に取りかかる際、M女は「オレ（自分のことをこう呼んでいる）、今日はストレス少ない」とつぶやいていた。M女にとって、この活動は楽しく充実したものになったようであった。

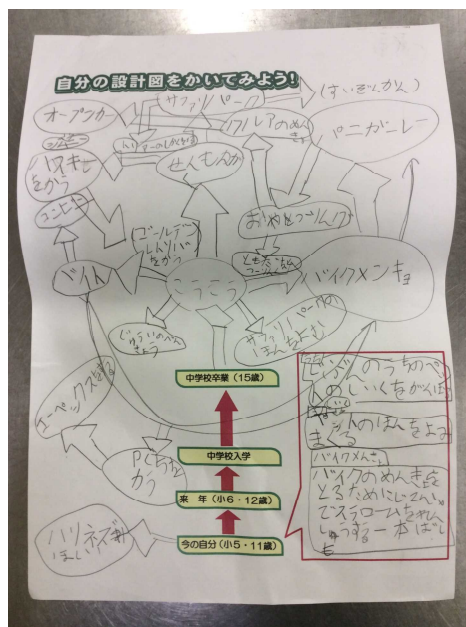


自分の夢に向かって、自分の設計図を書く

次に、今後の自分はどのようになっていくのか、いつ・どうなりたいかというイメージを持つために「自分の設計図」を描く活動をした。現在から未来を時系列で捉えながら、「この時はどうする」「この時にどうなっている」というイメージを自由にまとめていった。活動開始時、「今日も、夢についての勉強をするよ」と話すと、M女は「やったー。」と声をあげた。M女にとって一連の活動は、楽しいものになっていることが感じられ嬉しく思った。

「箕輪中学で県1位（テニス）」、「明治大学（テニス強豪校）に行く」「高校生でコンビニでバイトしてお金をためる」「高校卒業後、専門学校に行く」「工業系の高校を出てトヨタに入社」「18歳で免許を取る」等々、子どもたちは将来の自分の姿を想像しながら具体的にあれこれと書き込んでいく。

そして最後に「夢の実現のために、今現在やること」を記入。そこには「勉強を絶対に頑張る」「ペットの本を読みまくる」「テニスの練習をがんばる」「バイクの免許を取るために自転車でスラロームを練習する」等々、今やるべきことを考えて記入することができた。自分の夢に向かって、今の自分はどうすればいいのか、何が必要なのかを自分なりに捉えることができたように見えた。



M女の設計図

自分の夢を意識し続ける



自分の夢を意識し、そのために自分はどのようにいったら良いかを考えてきた子どもたち。そのことを持続的に意識し続けることができるようにと、「自分の夢のイメージ写真」と「自分の設計図」を教室の壁に掲示した。これを見ながら、子どもたちには「なりたい自分」を意識しながら、今すべきこと、がんばることを捉え、日々の学習や生活に生かして行ってほしいと願っている。

まとめ

日々の学習や生活に、前向きな気持ちで向き合っていてほしいという願いから、行った今回の活動。これを行ってから、子どもたちの姿も少し変わった（ような気がする）。学習に入る際、教室に掲示した自分の夢を見てから、「夢に向かって今日もがんばろう」「夢の実現のためには今からだよ」「やるなら今しかねえ～」等と言葉がけをし、意識を寄せられるようにしている。そうしたところ、以前よりも「嫌だ」「やらない」というような文句が減り、「やってみるか」というような意気込みを感じることができるようになった（気がする）。今後も、手を替え品を替え、自分の夢や願い、将来の姿をより明確に意識できるような取り組みを行い、自分の「今」の意欲や態度につなげられるようにしていきたい。子どもの意欲を盛り上げられるような授業改善を行っていくことも当然ながら・・・。

今回の取り組みを通し、子どもたちが、自分の将来の夢や希望をこれだけしっかり持っていること、それを素直に語れること、それに対して真剣であることに、私自身、正直ビックリしたと共に、とても嬉しかった。「なんて素敵な子どもたちなんだろう。」「この子どもたちの夢を、何としても叶えさせてあげたい。」素直に率直にそう思った。子どもたちがさらに愛おしくなった。自分がこのような思いを感じることができたことが、今回の取り組みの最大の収穫であったように思う。